

児童の授業理解度は、児童・両親の生活習慣と家庭のゆとりに関連

【目的】

児童の健康は、学力と強い相関がありますが、日本で児童の学力が他の要因とどのように関連するのか評価した研究は多くありません。そこで、富山県教育委員会との連携事業として実施された文部科学省スーパー食育スクール事業において、小学校児童の学力と生活習慣、親の喫煙、社会経済状態の関連性を評価しました。

【方法】

今回の研究は、文部科学省スーパー食育スクール事業の追加調査として平成 28 年 1 月高岡市内の小学生児童 2129 名を対象として行いました。

回収数は 1,986 名（回収率 94.2%）、有効回答数は 1,663 名（78.1%）でした。授業理解度は、「授業の内容がわかりますか？」の質問に対して 5 段階（よくわかる～わからない）で質問し、「よくわからない」、「わからない」と回答した児童を授業理解度が低いと定義しました。授業理解度が低い児童の割合は 18.0%（男子 17.4%、女子 18.6%）でした。

【結果】

- ・起床時間が遅く、メディア利用時間の長い児童は授業理解度が低い

児童の生活習慣については、起床時間を見ると、6:30 までに起床する児童に比べ、7 時までの児童は 1.36 倍、7 時以降の児童では 2.48 倍、授業理解度が低い児童が多いという結果でした。また、メディア時間が 2 時間以上（平日）では 2 時間未満に比べて 1.35 倍、自宅での学習時間では 1 時間未満では 1 時間以上に比べて 1.82 倍、授業理解度が低い児童が多いという結果でした。

- ・親の喫煙習慣や暮らしにゆとりがないと児童の授業理解度が低い

家庭環境については、父親が喫煙する家庭の児童は、喫煙しない家庭に比べて 1.47 倍、母親が喫煙する家庭の児童は 1.87 倍、授業理解度が低いという結果でした。また、家庭内の暮らしのゆとりでは、ゆとりがある家庭に比べて、ない家庭では 1.48 倍、授業理解度が低いという結果でした。

授業理解度の低い児童との関連 多変量解析

OR: オッズ比と95%信頼区間

*: $p < 0.05$

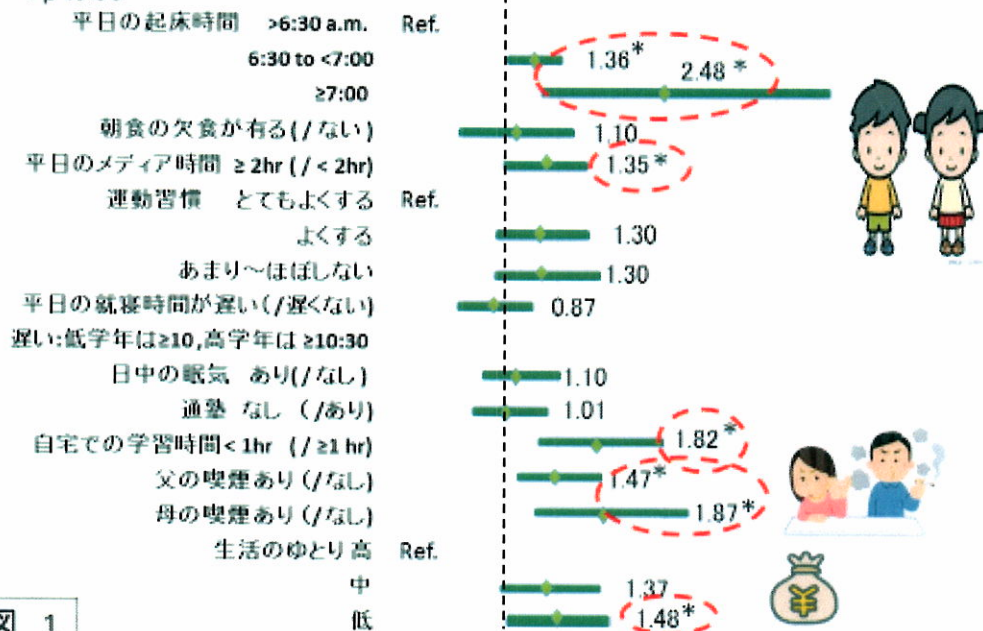


図 1

Yamada et al. Environ Health Prev Med. 2019;24(1);22.

【結論】

児童自身や両親の生活習慣が授業理解度と強い関連を示しており、これらの生活を変えることで、児童の授業理解度を高めることができるのではないかと思います。経済格差が学力格差を介して健康格差などの問題を引き起こさぬよう、児童自身、家庭、社会全体での総合的な対策が求められます。

【出典】

Yamada M, Sekine M, Tatsuse T, Asaka Y. Association between lifestyle, parental smoke, socioeconomic status, and academic performance in Japanese elementary school children: the Super Diet Education Project. Environmental Health and Preventive Medicine. 2019;24(1):22. doi: 10.1186/s12199-019-0776-x.